オペラの人材育成
サントリーホール オペラ・アカデミーの場合

小畑恒夫

沿革

サントリーホールのオペラ・アカデミーは1993年に始まったが、その内容や運営方法は幾度か変化しながら今日に至っている。

1993年はサントリーホールがプッチーニの《ラ・ボエーム》を上演した記念的な年だ。グスタフ・クーンが指揮と演出を受持ち、プロセニアムも舞台もないコンサートホールで本格的な舞台上演を実現させた。そのユニークな試みは大きな成功を収め、「ホールオペラ」という名前で2010年まで続いた。

オペラ・アカデミーは「ホールオペラ」が開始したその年から、日本の若い歌手たちに興味を示した指揮者クーンの発案で始まったのだという。初期は「ホールオペラ」の練習をする1ヵ月くらいの間にクーンや助手のマルコ・ボエーミが若い歌手たちを指導した。ヴェルディ・シリーズが始まると主演バリトンのレナート・ブルゾンがクーンの指導に興味を示し、彼も教えるようになった。こうして海外から来た指揮者や歌手たちが指導者になる習慣ができた。2004年～06年のプッチーニ・シリーズではニコラ・ルイゾッティが歌唱についての豊富な知識を生かして実り多い指導を行ったという。

もっとも初期には体制がはっきりしておらず、「ホールオペラ」のない時期は自主的に勉強会をやっていた。一時任意団体のようになった時期もあるが、2007年には再びサントリーホールの運営になった。サントリーホールは2010年に室内楽アカデミーも立ち上げ、室内楽とオペラという2分野をもつ正式な教育プログラムを行うことになった。オペラ・アカデミーの指導体制が現在のかたちになったのは2011年からだ。1993年の《ラ・ボエーム》で主役テノールを歌ったかつての名歌手（現在は指揮者）ジュゼッペ・サッバティーニがエグゼクティヴ・ファカルティとして招かれ、それ以来、6人の日本人からなるコーチング・ファカルティの協力を得て熱心な指導を行っている。

海外の指揮者や歌手たちの自然発生的な熱意があり、経費を工面してそれをかたちにしようとする人がいた。こうして生まれ、続いてきたのがサントリーホールのオペラ・アカデミーだ。2015年の募集要項に掲載された講師陣、応募資格、コース概要等を簡略にまとめて別表にあげるが、詳しい内容と現状について、オペラ・アカデミーを生み育ててきた真鍋圭子氏（サントリーホール　エグゼクティヴ・プロデューサー／オペラ・アカデミー・プロデューサー）と事務局の長谷川亜樹氏から話をうかがった。

理念と現在のシステム

このオペラ・アカデミーの目的は？　どういう人材を育てたいと思っていますか。

「究極の目的はここで育った人が世界の劇場で、コンサートで活躍することです。サッバティーニさんは、国際コンクールの審査員をしていても日本人歌手がなかなか出てこないとおっしゃる。大好きな日本の歌唱レベルをなんとしても引き上げたいという情熱を持ってくださっている。国際コンクールの年齢制限を考えて、このアカデミーで28歳を上限にしたのは彼の考えです」

アカデミーの受講生を募集するのは2年に1度で、プリマヴェーラ・コースでは今年5月から第3期生の研修が始まった。筆者は取材の際（2015年8月）、短い時間だがコーチング・ファカルティの野田ヒロ子さんのレッスンを見学させてもらった。他の受講生たちも見守る中で一人一人がイタリア古典歌曲を歌い、主に発声についての厳密な指導を受ける。3期生は21名在籍しているというが、その時レッスンを受けていたのは7～8名。受講生のほとんどは首都圏の音楽大学の卒業生や大学院の学生で、遠方では名古屋と富山県から通う人がいる。

音楽大学卒業にもかかわらず発声から指導するのかという素朴な疑問が湧く。じつはこのアカデミーではサッバティーニが提唱する「シレーネ」なる発声法をマスターすることが重要な課題になっている。声の響きを常に顔の前面に集めるというベルカント歌唱の基礎を徹底的に訓練する。

「プリマヴェーラ・コースの2年間は基礎なのです。まず国際コンクールで通用する声を作らなければならない。声ができるとレガートができるようになり……」

そんなわけでプリマヴェーラ3期生に与えられた課題曲は、イタリア古典歌曲集（パリゾッティ版）から28曲、それにヘンデル、バッハ、ヴィヴァルディ、モーツァルトなどから20曲を足した48曲で、これを教材として綿密なレッスンを行う。

もちろんコーチング・ファカルティ全員がサッバティーニ流の「シレーネ」をよく理解し、そのメソードに賛同していて、サッバティーニ氏が不在の時にもその方法で受講生を導くのだ。

2年間の研修費は無料だ。「受講生として受け入れるためのオーディションをやっているので皆さん一応の能力はあります」。オーディションの倍率は今のところ5倍くらいだという。「ただし研修費は無料なので、練習しない人とか、このメソードになじまない人にはやめてもらえます。2年間を修了する人は半分くらい。自分からやめる人もいれば、こちらからお断りする人もいます」。

なかなか厳しい話だが、教える側と学ぶ側の相互の熱意がもっともよい果実を生む理想的なやり方かもしれない。

アドヴァンスト・コースは2期生を迎えた。今回初めて公募を行い、留学経験のある2名を外部から、プリマヴェーラ・コース2期修了から2名を選抜して、4人が在籍している。「アドヴァンスト・コースは基礎やテクニックができている人なので、オペラの役を勉強します。1年に4本見るようそれぞれに課題を与えています」。

演技の勉強はするのですか？ 「今はまだ演技まではしていません」という。「アカデミーオペラ公演で役がつくことになったら演技指導がつきますが、このアカデミーの中では歌の表現までのレッスンです」

プリマヴェーラ、アドヴァンストの両コースともに1年目と2年終了時にコンサートが行われ、外部に向かって成果を発表する。その他に毎年秋冬期にオペラ・アカデミー主催のオペラ公演がブルーローズ（小ホール）で行われ、アドヴァンストの受講生は選ばれれば出演できるし、プリマヴェーラの受講生は合唱などでかかわり、オペラを体験することができる。

定期研修会はサントリーホールのリハーサル室が使える日、コーチング・ファカルティが出席可能な日をすり合わせ、月2～3回。指導陣は来られるファカルティが2名とピアノの古藤田みゆきさんの3人体制をとっていて、受講生はそのときに来ているファカルティから指導を受ける。指導内容は日誌に記され、ファカルティ間で共有される。サッバティーニの集中レッスン（特別研修会）の時

にはファカルティたちはサポートに入る。

アカデミーはピアノ受講者も受け入れている。今期は上記48曲の課題曲を全部マスターし、オペラ公演の曲目を通して練習する。こちらはプリマヴェーラ、アドヴァンストの区別はないそうだ。

特色とまとめ

サントリーホールが展開する企業活動に「エンジョイ・ミュージック・プログラム」というものがあり、その中には「プロフェッショナルな音楽家を育てる」という項目もある。このオペラ・アカデミーはその活動の一つに位置づけられる。

ただしこれまでに見てきたオペラ研修所と違って、ここには「この課程を修了したらオペラ歌手になれる」というわかりやすい教育プログラムがない。たとえばひとつの演目や場面を取り上げ、受講生で役を割り振って舞台に仕上げるといった具体的なやり方はしない。そもそもオペラ歌手にとって最も重要なものはなんだろう。エグゼクティヴ・ファカルティに就任したサッバティーニの要求はまず声を作ること。理想的には2年間でオペラまでやりたいのだが、現状は国際レベルまで到達するのに時間がかかる。それで必要に応じてアドヴァンスト・コースを作った。時間はかかるが、絶対妥協せず、「よくないものは決してよいとは言わない」サッバティーニの理念が貫かれている。

「無料で教える」「できなければできるまでやる」「時間に縛られない」——こうした考え方は効率を重視する現代社会にすこし馴染まないところがあるかもしれないが、人を育てるには寺子屋的な情熱も必要だ。今回訪問して強く感じたのは、教育にかかわる人たちの熱意、若者たちの才能を伸ばし、なんとか国際舞台に送り出したいという熱い思いだった。

そもそも「ホールオペラ」時代から、このアカデミーは「オペラ歌手養成所」ではなく、国際的なレベルを求める若者たちが集る場所だった。森麻季、櫻田亮、天羽明惠、野田ヒロ子たち（現在のコーチング・ファカルティは全員このアカデミーの出身だ）は海外のすぐれた指揮者や歌手たちから何ものかを学ぶために集り、そこから何かを得て欧米でのキャリアを築いていった。世界のオペラ界が要求する基礎を若いうちに発見し、身につけることがもっとも大切。それは今のサッバティーニも考えていることではないだろうか。

サッバティーニ体制は1993年に始まったが、教える方法も受講生の傾向やレベルに合わせて試行錯誤があったという。コーチング・ファカルティの意見も取り入れ、課題曲を増やすなどよりよい教育方法を模索してきた。そうすると、たとえば「シレーネ」の修得などは、指導者が代わればまた違う特色をもつ教育方法になる可能性はあるだろう。

若者たちのレベルが高くなれば自然にオペラ公演はできる。オペラ・アカデミーは毎年の公演を行っているが、いまのところ主役は公募に頼らざるを得ない。前回《愛の妙薬》にはとくに優れたプリマヴェーラ・コースの修了生が主役で出た。いずれ修了生だけでオペラ公演ができるようになるのが一つの目標だという。

一つの理想に向かって、とにかくいま可能なことをする。システムを作るよりも、目の前にすぐれた才能があればよい刺激を与えてそれを伸ばす。たとえばオペラ公演はブルーローズで行われるが、たまたま横須賀芸術劇場から公演依頼があって、2012年から《こうもり》《コジ・ファン・トゥッテ》《愛の妙薬》と大ホールでの本格的なオペラ体験（オーケストラ伴奏）ができた。知恵を絞り、チャンスを生かしてできる限りのことをやっ

ている。

このアカデミーには理想を求める熱意があり、同時にかたちにとらわれない自由さがある。それはプロデューサーの真鍋氏やサッバティーニの理念なのだろう。

今後サッバティーニ体制がどう発展して行くのか、またここからどんな国際的オペラ歌手が育ってくるのかを、じっくり見守っていきたい。

サントリーホール　オペラ・アカデミー　別表

講師陣	**エグゼクティヴ・ファカルティ**：ジュゼッペ・サッバティーニ（指揮者・声楽指導者） **コーチング・ファカルティ**：天羽明恵（S）、野田ヒロ子（S）、櫻田亮（T）、今尾滋（T）、増原英也（Br）、古藤田みゆき（Piano）
コース概要	**研修年限**：２年間 **受講料**：無料
	研修会 ①コーチング・ファカルティによる定例研修会（月２～３回程度） 原則として月・火・金の10:00～17:00に開催。 ②エグゼクティヴ・ファカルティによる特別研修会（年３回程度） １週間から10日程度の連続研修会。
	研修内容 **プリマヴェーラ・コース**：発声の基礎からベルカント唱法、イタリア古典歌曲、室内楽曲および古典派オペラを学ぶ基礎クラス。 **アドヴァンスト・コース**：オペラの役を通して深い表現・解釈を学ぶ上級クラス。 ※ピアノ受講者は両コースにまたがった研修内容。 １年次終了時およびコース終了時に、サントリーホールブルーローズ（小ホール）で成果発表の機会がある。年１回のオペラ公演（ブルーローズで開催）にカヴァーキャストやアンダースタディ、合唱等での参加資格が与えられる。
応募資格	**プリマヴェーラ・コース**：大学卒業程度～満28歳まで（応募時） **アドヴァンスト・コース**／ピアノ受講者：満32歳まで（応募時）